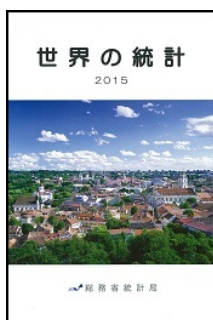


## Guide 3-17 統計を探すためのツール (日本語で書かれた国際統計：総合統計書)

日本語で書かれた国際統計のうち、多くの分野の1次的な統計データを編集して1冊にまとめた総合統計書の代表的なものをまとめます。国レベルでより客観的に比較したい場合などぜひ利用してみてください！

### ▶ 【資料・Web サイト】世界の統計

【まずはこれ！コンパクトかつバランスよく網羅的にまとめられています】



【資料】総務省統計局が編集している国際統計をコンパクトにまとめた総合統計書。各統計について出典元に関する解説（データ編集時の注記）はありますが、統計表自体に関する解説（動向や今後の予測など）は無いです。末尾にキーワード索引があります。以前は『国際統計要覧：世界の統計』というタイトルでした。最新号は本館・南棟3階・参考白書年鑑、経済・図書室(年鑑・白書等)、北図書館・東棟2階・年鑑白書等、農・農業経済図書室にあります。過去の分を最も多く揃えているのは本館です。

【Web サイト】2009（平成21）年版以降を掲載しています。最新号のみ各統計表がエクセルファイル形式で入手可能です。

<http://www.stat.go.jp/data/sekai/>

### ▶ 【資料】世界国勢図会

【主要な財の生産量・貿易、軍備に関する統計が充実するほか、時事に即したトピックも取り扱っています】

各章の冒頭には概況が1-2ページ程度で簡潔にまとめられています。取り上げるトピックは時事に即したのも見受けられ、2017/18（平成29/30）年版には「シェールオイルの技術的回収可能資源量」など『世界の統計』には載っていない統計もあります。特に主要な財の生産量・貿易や、軍備などの統計が充実しています。各統計の出典は注記とともに記されており、末尾にキーワード索引があります。最新号は、本館・南棟3階・参考白書年鑑、北図書館・東棟2階・年鑑白書等、経済・図書室(年鑑・白書等)、農・農業経済図書室にあります。過去の分は本館や北図書館に最も多く揃えていますが1990年代、2000年代が一部欠けています。

### ▶ 【資料】世界統計白書

【人々の生活に着目した統計を多く取り扱っている点が特徴と言えます】

各章の冒頭には概況および年表が2-5ページ程度でまとめられています。2015/16（平成27/28）年版では「1人当たりアルコール消費量」、「書籍出版数」などがあるとおり、人々の生活に着目した統計が多いと言えます。出典については直接の出典だけでなくおもとの原典を併記する点がある点は利点と言えますが、記載は簡潔で『世界の統計』や『世界国勢図会』と比べるとややわかりにくい場合があります。末尾にキーワード索引があります。創刊は2006（平成18）年ですが、北大にあるのは2012（平成24）年以降のみ。本館・南棟3階・参考白書年鑑にあります。



## 【資料・Web サイト】世界統計年鑑

【より多くの国・地域の基本的な情報を比べたいのであればこれ！】

【資料】国連統計部が出版している“Statistical Yearbook”の日本語版。広範な分野を取り扱っていますが、対象国・地域の数を多くすることに重点が置かれていると言えるため、統計表の種類は前のページの総合統計書に比べると少ないです。また、統計表作成時の注記は詳細にまとめられていますが、2010（平成 22）年版以降索引がありません。最新号は、本館・南棟 3 階・参考白書年鑑、北図書館・東棟 2 階・年鑑白書等、経済・図書室(年鑑・白書等)にあります。過去の分は本館に最も多く揃えています。

【Web サイト】原著“Statistical Yearbook”の 2005（平成 17）年版以降は下記 URL で PDF ファイルを入手可能です。

<http://unstats.un.org/unsd/syb/default.htm>



## 【資料・Web サイト】図表でみる世界の主要統計：OECD ファクトブック

【先進諸国における課題を掘り下げて考察するなら一見の価値があります】

【資料】経済開発協力機構（OECD）が出版している“OECD Factbook”の日本語版。OECD 加盟 34 か国に加えていわゆる BRIICS を対象にしている統計が多いです。2015/6（平成 27/8）年版の章立ては「人口と移住」、「生産」、「家計所得と資産」、「グローバルイゼーション」、「価格」、「エネルギーと輸送」、「労働」、「環境と科学」、「教育」、「政府」、「健康」。鉄鉱業や農林水産業などの統計が少ない一方で、先進諸国における課題にポイントを置いていると言えます。各統計表には出典に加えて、統計表についての定義や比較可能性、概観が記されていることが多いです。また、各統計表には StatLink という URL が記されており、この URL にアクセスすると統計データや表をエクセルファイルで入手可能です。索引は 2009（平成 21）年版以降は無いです。創刊は 2005（平成 17）年ですが、北大にあるのは 2006（平成 18）年以降のみ。最新号は本館・中央棟 4 階・参考 OECD 資料、北図書館・東棟 2 階・年鑑白書等にあります。

【Web サイト】北大で契約している有料のデータベース「OECD iLibrary」で Web 版“OECD Factbook”の 2005（平成 17）年と 2008（平成 20）年以降が利用できます。 [http://www.oecd-ilibrary.org/economics/oecd-factbook\\_18147364](http://www.oecd-ilibrary.org/economics/oecd-factbook_18147364)

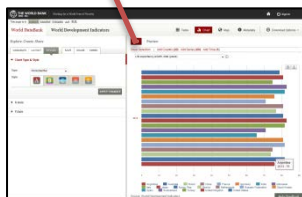


## 【資料・Web サイト】世界経済・社会統計

【国際開発や貧困に的をしばった統計ならこれ！英語版は統計表やグラフを自由に作ることもできます】



World development indicators は電子ブックで読むこともでき（上）、データから統計表やグラフを自由に作成することもできます（下）。



【資料】世界銀行（World Bank）が出版している“World development indicators”の日本語版。2013/14（平成 25/26）年版の序文に「私たちの目的は、政策立案者、開発専門家、学生、および一般の人々が、データを入手するにあたっての最良の方法を見つけ、それによって、彼らが貧困を削減し、世界で最も苦しんでいる発展に関する課題を解決するためにデータを使用できるようにすることである。」とあり、貧困や国際開発に焦点を絞っていると言えます。例えば「教育の効率性-中等教育への進学率」、「都市の居住環境-住宅の耐久性」といった項目があります。各統計表には出典に加えて、統計表についての定義やデータの解説が記されています。末尾にキーワード索引があります。以前は『世界開発報告』の巻末付録に「世界開発指標」として掲載されていましたが、1997（平成 9）年からは独立して刊行しています。最新号は本館・南棟 3 階・参考白書年鑑に所蔵しており、過去の分は本館・中央書庫 1 階・参考白書年鑑に概ね所蔵していますが 2002（平成 14）年から 2007（平成 19）年などが抜け落ちています。

【Web サイト】原著“World development indicators”の 2005（平成 17）年版以降は下記 URL で PDF ファイルを入手可能です。また、データベース「World DataBank」で統計表やグラフの作成が可能です。さらに「World DataBank」にはベータ版ではあるものの 1989（平成元）年版に遡って過去のデータを参照できる機能があります。

<http://data.worldbank.org/data-catalog/world-development-indicators>

### 参考文献

加藤浩, 堀純子. 国際統計の情報源 (1). 参考書誌研究. 2007, 67 号, p.40-100. <https://rnavi.ndl.go.jp/bibliography/entry/bn60-69.php>, (参照 2015-07-15) .